

令和5年 9月29日(金)

あさひの日だまり

NO.22

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～「絵をかく日」を行いました～

ふるさとの風景を心と体で楽しみました

「絵をかく日」を企画しました。各クラスで、子どもたちと相談しながら題材を決めて絵をかく1日です。最初は写生会という名前にしようと思っていましたが、1年生や2年生は、対象物を見ながらそれを紙の上に表現することには困難さがあるということをベテランの先生から教えてもらいました。体験したことや目に焼き付いたことを、イメージとして紙の上に表現することが得意な年齢なのだとということも教えてもらいました。低学年の子どもたちを担当したことのない私にとっては「なるほどそうなんだ」と新鮮な驚きでした。

低学年の先生が、当日は地域に出かけて行って、そこで楽しい体験をしてきてそれを絵にしますと担当の先生がお話をしてくださいました。そこで、写生会という名前を「絵をかく日」と変えました。

各クラスで、どんな絵を描くか決めてくれました。ぐるっと回って様子を見てきました。感心したのは、選んだ対象にはどれもひき付けられる力があるということです。

3年生の選んだのは荒神山の機関車です。眺めていると、煙をもくもくと吐き出しながらくさんの人をのせた客車を引っ張って今にも動き出しそうです。

5年生が選んだのはしだれ栗公園です。木の幹の太く細く思いのままに広がっている姿を苦労しながら画用紙の上に表現していました。

6年生は、「思い出の場所」を描きました。思い出の場所は一人ひとり違います。「子どもたちを信じて、町内の行きたいところへ自由に行かせてあげましょう」と6年の先生方とお話をしました。6年の先生は、子どもたちから描きたい場所をすべて聞き取り、丁寧に巡視をして声かけをしてくださいました。その子にはきっとそこに忘れられない思い出があるのでしょう。通学路の橋の上から見える川を描いている人がいました。よく遊んだ公園を描いている人もいました。交差点を書いている人もいました。学校の思い出の場所を書いている人もいました。

私も町内のあちこちで6年生に出会いました。同じ場所で1人、じっと座り込んで絵を描き続けている児童を目にしました。「頑張るね」と車を停めて思わず声をかけました。「絵をかく日」の一コマです。



遊具で思いっきり走り回る1年生



2年生は土俵に上って大相撲



3年生は好きな角度を選んで機関車をかきました

4年生はタブレットで好きな風景を取り込みました。



5年生はしだれ栗公園で



6年生は思い思いの場所で心を込めて



～ホタルの里小学生駅伝大会がありました～

4チームの子どもたちが頑張りました



23日の土曜日にほたるの里小学生駅伝大会が荒神山のたつの海周回コースを中心に開催されました。当日は、東部保育園の運動会の応援に保育園を訪れていましたので、途中抜けさせてもらい、駅伝の応援に駆け付けました。

辰野東小学校からはすべてのカテゴリーに4チームが参加しました。1チームのメンバーは3人で編成されていて、ここまでチームで練習を重ねてきたということをお聞きしました。

走り始める前の選手の皆さんの表情からは緊張感が漂い、自分を落ち着かせるように体を動かしたりチームメイトと言葉を交わしたりしていました。私が走るわけではないのですが「この緊張感が何とも言えないな」という気持ちになりました。

した。

大会は辰野町の陸上競技に携わる方々の手によって行われているようで、ルールが順守され、しっかりとした計画で運営されていることがうかがえました。こんな良い環境で思い切り力を発揮できる選手の皆さんは幸せだなと思うとともに本当に良い経験をしているなど実感しました。

実際に選手の皆さんが走り出した姿を見ると。体幹がしっかりとっていて、

走りが安定していることがわかりました。

その姿からも、練習を頑張って積んできたことがうかがえ感心しました。

結果は4チームすべて優勝。1位でゴールするたびに本当にうれしい瞬間を経験させてもらいました。選手の皆さん本当におめでとうございます。そしてご苦労様でした。来年も期待しています。また、応援に駆けつけておられたご家族の皆様、お子様のご活躍おめでとうございます。



～6年生があさひ美術館で学習しました～

小松館長さんのお話を聞きました



毎年6年生は、あさひ美術館の館長さんをお招きして、あさひ美術館に所蔵されている美術品の鑑賞と、作者に関するお話をお聞きしています。本年も小松先生をお招きして25日の月曜日に鑑賞教室を開催しました。小松先生は、あさひの地の美術の系譜に関して大変深い知識を持っておられ、お話に思わず引き込まれてしまいます。80才という高齢ながら、その口調はしっかりとっておられ、子どもたちも集中して話を聞いていました。

実は、先日は職員研修として宮澤教育長をお招きして渡辺嘉一（渋沢栄一と同じ時代を共に関係を結びながら生きた郷土が誇る偉大な人物）についてのお話を聞きました。渡辺氏をはじめとして多くの芸術家の方々、有賀幸作氏や古村啓蔵氏等戦時中を生きた方々、思い浮かべただけでも、日本を代表する多くの人々をこの地は輩出しております。今回の美術鑑賞も、子どもたちが先人の思いに想像をめぐらす機会としても大切にしていきたいと思います。

の美術鑑賞も、子どもたちが先人の思いに想像をめぐらす機会としても大切にしていきたいと思います。